

タイ国の民間医と民間薬*

木 島 正 夫**・田 端 守**

Daroon PECHARAPLY***

On a Thai Native Doctor and His Folk Medicine

by

Masao KONOSHIMA, Mamoru TABATA and Daroon PECHARAPLY

タイ国では西洋医学とは別に、タイ国古来の医学があり、数百年の歴史を有し、インドに発祥するアユルベーダ (Ayurveda) 医学に起原を発し、その影響を大きく受けているといわれている。この古医学の治療のほとんどは生薬を用いるものであり、われわれが、漢方医学で使用する生薬を「漢薬」と呼ぶように、これに使う生薬を「タイ古医薬」あるいは「タイ薬」と呼んでいる。

現在、タイ古医学の協会本部はバンコクの名刹ワット・ポー Wat Pho (菩提樹寺) にあって、ここに古医学の教習所 (“Native Doctor School” と呼ばれ、バンコクにはもう一つの教習所がワット・サムピヤ Wat Samphya にも設けられている) が設置されている。この教習所で古医学を修めた医学生は、国家試験を受けて “Native Doctor” の免許が与えられ、診療の資格を得て、近代西洋医学を修めた医師とは別に古医学による治療に携わっている。(中国人あるいは中国系タイ人がいわゆる中国医学による治療を行なうため、開業の資格を得る方便として古医師の資格を得る者も多い。) しかし、西洋医学による治療は都会地に限られ、地方農村ではこれらの有資格の “Native Doctor” の分布さえも少なく、ほとんどは古来父祖代々伝承的に医業を営む者が、その地方に産する薬草を主とする天然物を用いて大衆に医療を施し、またこれらの薬草ないし生薬の採薬業をも兼ねていることが多い。彼らのほとんどは古医学教習所の教育を受けたものでもなく、ただ伝承と経験とによる治療、施薬をする無資格医であるが、タイ国ではこれらの人達をも等しく “Native Doctor” あるいは “Harb Doctor” と呼び、農村地区では大切な医療機関としての位置を占めている。

* 本研究調査は昭和46年度文部省科学研究費補助金(海外学術調査)の交付を受けて実施した「京都大学タイ国に於ける薬用植物ならびに生薬の学術調査」の一部である。

** 京都大学薬学部生薬学教室

*** Department of Medical Sciences, Ministry of Public Health, Bangkok, Thailand (当時京都大学薬学部生薬学教室修士課程学生)

われわれの今回の学術調査は、主として前述したタイ古医学に使用する生薬、すなわち「タイ古医薬」の調査研究を中心とするものであったが、一方タイ国では最も充実した薬用植物の資料と考えられる“Pramuan Sapphakhum Ya Thai (タイ国薬物効能集成)”(文献2)は、タイ各地に住むいわゆる“Native Doctor”が実際に使用する薬用植物を調査集録したものであるというので、今回の調査に関連して、地方の無資格の“Native Doctor”達がその治療、施薬に使用する薬物に興味をもち、何かの機会に“Native Doctor”の実態の一端でも知り得たいものと希望をもっていた。しかしこれらの“Native Doctor”達はどこにおいても多くの場合、それぞれの地方地方に地盤をもち、しかも個人個人の伝承、経験を基盤とする治療であり施薬であるから容易に他人に語りたがらない。むしろ閉鎖的な傾向さえあるもので、その実態調査はその地方に定着して、その地方の人達の間にとけこみ、同化しない限り大変困難なことが多い。今回の調査のように短期間に、しかもいろいろの地方の調査を目標とするときにはなおさら困難であることが予想された。

たまたま今回の調査にあたり、タイ国立医薬研究所はその好意で、われわれ調査隊の案内役としてロップブリ Lop-buri (バンコクの北方約150キロ、チェンマイに通ずる国道に沿った小都会)の近郊に住む老民間医 Tong-ek Wanweeset 氏を同行させてくれた。

Tong-ek 氏は当年にとって75歳(自称)の老医、現在はいちおう引退してほとんど医療には携わっていないが、若い時からタイ国内の山野を渉猟して、自らの投薬する薬草を採集し、また生薬の採集販売もして来たという、薬物に対しては豊富な知識と経験をもつ老人である。彼もまた医薬に対する専門的な教育を受けたことはなく、幼時から父祖代々の伝承と自らの経験にもとづき、自信をもって医療に従事して来た老人で、正確に言えば無資格医ではあるが、“Native Doctor”と呼ばれ民衆からは尊敬されている。



写真1 民間医 Tong-ek 氏とその診療所兼居宅 (Lop-buri)

Tong-ek 氏は、 瘦身しかも老齡であるにかかわらず、 若い時から熱帯の山野を歩きまわっただけあって極めて壮健で、 われわれの調査期間中終始隊員と行動を共にしてくれて、 ときには“薬草を食べ、 飲んでおればこのように元気である”などと誇らしげに語ってくれるなど、 素朴で温和な人柄で、 われわれには特に好意的、 しかも開放的で調査途上、 種々の有益な興味あることを聞くことができた。 Tong-ek 氏の医療のことについてはいざ知らず、 植物採集（薬草採集）を愛好し、 薬用植物や生薬に対する経験から来た彼のもつ知識は極めて豊富なもので、 このような人が次第に減りつつあるタイ国では、 Tong-ek 氏は貴重な存在であるといえよう。 われわれ隊員も Tong-ek 氏が同行してくれたことをひとしく感謝している。

このようにして、 われわれは、 出発前に淡い期待を抱いていた民間の“Native Doctor”の一人とはからずも親しくなることが出来たので、 この機会に“Native Doctor”そのものの実態の一端でも知りたいものと考え、 調査の最終に予定していたコースの一部を割愛変更して、 Tong-ek 氏の住むロップブリを中心にプラプッタバット Phlaphutthabut などの地方に重点を置いて採集、 調査を試みた。 この変更にはさらにもう一つ、 この地方がタイ国の石灰岩低丘陵地帯でもあるという理由もあった。

以下は Tong-ek 氏を訪問した際に著者の一人田端が、 Daroon の通訳により一問一答を試みこれを要約記録したもので、“Native Doctor”の実態の一端を知り得るものと思う。

1) Tong-ek 氏の医薬背景

Tong-ek 氏は5歳の時、 民間医である父の薬用植物採集に随伴して以来70年の間タイ薬を研究してきたが、 医薬については父と祖父から習ったのみで学校教育は受けていない。 しかし本人は、「タイには患者を治療できる民間医は大勢いても自分ほどに生薬の知識を持っている者はいない」と自負している。 民間医の用いる医薬に関する記録や書物のようなものは全く伝わっておらず、 薬物の処方も地方によって相違するという。 また Tong-ek 氏の伝承する医術

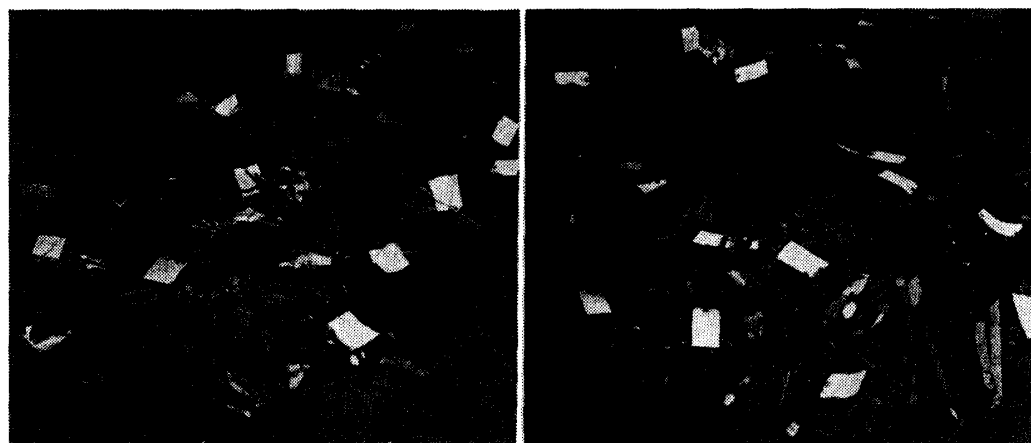


写真2 Tong-ek 氏宅の土間に並べられた民間薬（われわれのために集めてくれた近在の民間薬である）

は、インド古医学や漢方医学の影響を受けていると思うかという問に対して、そのような影響は全くなく、彼独自のものであると答えている。したがって Tong-ek 氏の用いる医薬は、主として父祖から伝承したものに自己の経験を付加したものから成ると思われる。

2) 診 察 法

患者の診察の重点は視診と触診に置かれている。触診の主目的は、各所の皮膚に触れることによって身体の中の部分から熱が来るかを感じ取ることにある。脈診、聴診、打診などは行なわないが、患者の顔を見て、身体に触れ、容態を聞けば長年の経験からいかなる病気であるかを判断できるという。したがって診察用具というものは何もない。このように診断法は簡単で、多分に経験と勘に依存しているが、皮膚の状態と体熱を重視しているのが特徴である。ちなみにこの地方では皮膚病、水疱瘡、および熱病が多く、マラリアも政府による蚊の撲滅運動にもかかわらず、まだ見られるという。

3) 投 薬 法

診察を終えた患者には、まず適当と思われる一つの生薬を与え、その後の容態の変化を観察する。これは患者がもっている病気の種類を明らかにする上で役立つという。この最初に与える薬は弱い下剤であることが多く、これによって体中の“悪いもの”を排除する。そしてその後、患者の熱が下がるかどうか、あるいは回復を示すかどうかを見て、もし快方に向かわなかった場合には、患者の容態に応じて別の生薬を与える。このように Tong-ek 氏は、病気の一般的治療法として下剤による体内毒の排除を第一目標とし、それに対する患者の反応に基づいて次の方針を決めていることは興味深い。同氏は治療に漢方薬も新薬も使用することはなく、彼の知っているタイ薬だけで、慢性病を含むいかなる種類の病気でも直す自信があり、たとえ“痔”や“がん”であっても可能であるという。

治療に用いる薬用植物あるいは生薬は、ほとんどすべて浸出液、煎汁または搾汁とし、粉末として使うことはない。それゆえ調剤に必要な器具は、生薬を切るナイフと溶液の煮沸に用いるポットだけである。処方通常二種類以上の生薬から成り、一種類を単独で用いることは稀である。後者の場合でも、実際には、その植物の抽出液を蜂蜜やレモンジュースと混ぜて与えることが多い。たとえば、蛇による咬傷には Phya-ya (ミカン科 *Limonia acidissima*) をレモンジュースと混ぜて傷口に塗るような調剤法である。Tong-ek 氏は、自己の経験上、一つの病気の治療にはせいぜい二、三種類の植物を配合するにとどめ、バンコクの薬局などのように多種類の生薬を混ぜた複雑な処方を用いることはないという。一例をあげれば、小児用の下剤として Cha-em-thai (マメ科 *Albizia myriophylla* ?) 一種類を水ですりつぶしその汁を飲ませている。

上述のように、Tong-ek 氏の薬物の使用法は端的で素朴であるといえようが、本人はこの独自な方法を信頼し、むしろ誇りにしているふうに見受けられた。なお、植物を乾燥して生薬

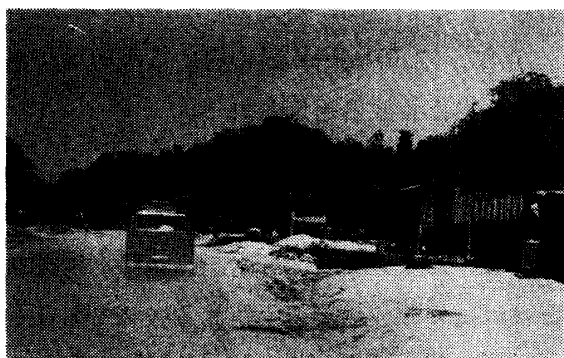


写真3 民間医 Tong-ek 氏の住む Lop-buri 郊外

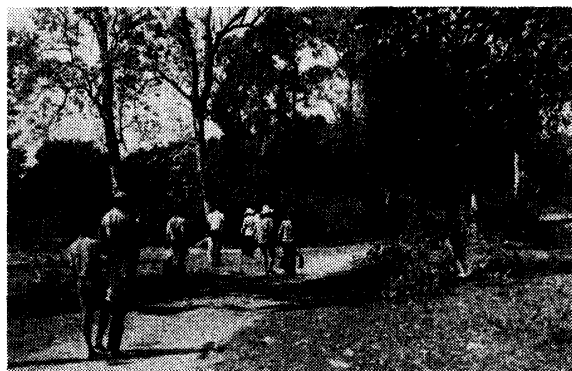


写真4 Tong-ek 氏の手近な採集場所である Lop-buri 近郊寺院の林叢

として用いるほかに、新鮮なまま使用することが多いのは、年間を通じて自生植物を得やすい熱帯環境を反映しているように思われる。

4) 採 集

Tong-ek 氏によれば、薬用となる植物の種類は非常に多く、タイ全土で約7000種類あるという。また同氏の居住するロップブリ近辺だけでもおおよそ1000種類の植物が自生し、そのほとんど全部が薬用になりうるが、実際に使うものはその半数の500種類くらいであるとのことである。これらの数字はもちろん不正確で多分に誇張があると思われるが、予想外に多種の植物が薬物視されていることは事実である。

医療に用いる植物材料は、すべて自生植物の採集によって自給され、そのため Tong-ek 氏は、ロップブリ周辺以外にタイの半島部を除いた各地を旅行して採集している。特にビルマ国境に近いカンペンベットの郊外で採集することが多く、これらを各地の生薬店や民間医に販売している。タイの民間医が使う生薬はすべてタイ産のもので、外国からの輸入品はないという。それゆえビルマの植物を入手したい時には、タイービルマ国境の山地に出かけて採集するそうである。また Tong-ek 氏は、薬用植物は年中いつ採集しても薬効には変わりなく、植物の年齢による違いはほとんどないと考えている。従来民間医は、天然薬物を自給する立前にあったのであろうが、Tong-ek 氏の指摘するように、植物知識の乏しい医者が多くなった現今、植物に詳しい採集業者に依存するという一種の医薬分業が起こりつつあるように思われる。

5) 治 療 薬 例

最後に、Tong-ek 氏が実際にどのような薬物を用いているかをうかがう一資料として、二、三の重要な病気に対する具体例を記すことにする。

(1) マラリア

マラリア患者の治療には、Ta-krai-nam (アカネ科 *Cephalanthus maucleoides*) や、Ta-krai-hang-nark (ムラサキ科 *Rhabdia lycioides*)、あるいは竹 (イネ科 *Bambusa sp.*) の節を



写真5 採集品について Tong-ek 氏に薬効その他を聴取して記録する Daroon (左) とその標品を整理する隊員 (右)

使う。また Hua-khao-yen (ユリ科 *Smilax sp.*) も使われることがある。意外なことは、有名な抗マラリア 特効薬 であるキナを決して使わないことである。その理由について同氏は、「キナは頭の熱に対してのみ使われるべきもので、患者がキナを取り過ぎるといらいらして、気が短くなる。一方竹の節は頭熱を下げるだけでなく、全身の高熱を下げるからマラリアに適している」と説明している。

(2) 高 血 圧

高血圧には、Sa-lad-dai (トウダイグサ科 *Euphorbia trigona*) の心材を用いる。そのほか Pluek-ma-room (ワサビノキ科 *Moringa oleifera* の樹皮) も使われる。これと関連して、「心臓を患っている人も以前は診たことがあるが、近頃は心臓病患者は近代的な病院のほうへ行くようだ」と同氏は付け加えた。

(3) が ん

“がん” の治療薬としては次の薬物が挙げられた。Khan-thong (トウダイグサ科 *Gelonium multiflorum*), Pradong-sai (バラ科 *Parinarium sp.*), Pradong-nok-krod (バラ科 *Parinarium sp.*), Mai-sak (マメ科 *Erythrophleum sp.*), Lam-pong (ナス科 *Datura metel*).

上記の植物はインド、マレーでは使われず、タイの書物にも薬効の記載が見当たらないことから、独自の使い方をされているものと推察される。また Tong-ek 氏の言う“がん”とは、どういう種類のものを指しているのかを尋ねると、「上述の植物はいずれも“肺がん”に使うもので、“肺がん”は肺結核と同じ病気である」という要領を得ない答が返って来た。さらに、いわゆる“がん”とはどのような性質のものを意味するのかという質問に対しては、「とにかく

く、身体の中にできるものであるからよくわからない」と正直に答えた。なお、最後に挙げた Lam-pong は、この地方に自生する *Datura metel* のことであるが、Tong-ek 氏は、その果実を“胃がん”に用い、また種子の抽出物から作った軟膏を“外部のがん”の上に塗布するという。

(4) 強 壮 薬

強壮・強精薬として、Tong-ek 氏には秘伝の“Ya-ayuwatana”(不老長寿薬の意)がある。これはある種の植物のジュースに蜂蜜を加えて製造した泥濁色の粘稠液であり、分量を多くして与えると糖尿病にも顕著な効があるという。彼自身もこの液を連日服用するので、75歳の今日も元気でいられると自慢していた。



写真6 A: *Balanophora* sp.
 B: *Oroxylum indicum* Vent.
 C: *Amorphophallus campanulatus* Blume
 D: *Bambusa* sp. (Spine)
 いずれも Lop-buri 近郊の自生品

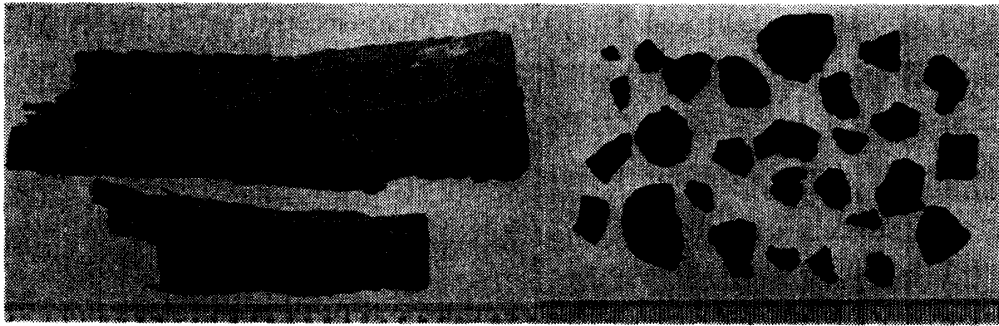


写真7 “Si-siat”—*Pentace burmanica* Kurz の樹皮(左)と Tong-ek 氏が自製したこの樹皮の水性エキス(シャム阿仙薬)(右)

なお以下の植物目録は Tong-ek 氏がわれわれのために Lop-buri 近郊で採集してくれた薬用植物(一部同氏の備蓄生薬を含む)、ならびに同氏の案内でわれわれが採集したものを、彼の説く薬効をそえて記したものである。したがって主として Lop-buri 近郊の一地方に限られたものであり、またその一部であるが、同氏の説く薬効は彼の診断法、投薬法に関連して興味のあるものであり、タイ国の民間医ならびに民間薬を示す資料になり得るものとする。

〔1〕薬用植物の配列順序は Engler 方式の植物分類順によった。

〔2〕*印は従来のタイ薬物文献(木島正夫;タイ国生薬の考察(Ⅰ)〔東南アジア研究 6 (2) 407~416 (1968) 参照〕には見られない薬用植物である。引用した主要な薬物文献は次のものである。

1) Moh Sa-ngiam Phong-bun-rot:

“Mai-thet Muang Thai (Sapphakhun Khong Ta Thet lae Ya Thai)”

(“Medicinal Plants in Thailand”)

Kasaem, Bannakit, Bangkok. 1959.

2) Phol Phaet-thanesuara (ed.):

“Pramuan Sapphakhun Ya Thai” (“Medicinal Uses of Thai Drugs”)

Part I. (1st. ed.) 1964, (2nd. ed.) 1971.

Part II. 1967.

Part III. 1969.

Samakhon Rongrian Phaet Phaen Boran (The Association of the School of Old-style Medicine, Bangkok.)

3) Technological Research Institute (ed.):

“An Initial List of Thai Medicinal Plants”

Applied Scientific Research Corporation of Thailand, Bangkok. 1966.

(Prepared from the lists obtained from The Old-style Doctor's Association

of Thailand and The Old-style Pharmaceutical Medicine of Thailand)

〔3〕 用部, 薬効に () を付したものは従来のタイ薬物文献に記載されているものである。

〔4〕 各項に——を入れたものは正確な記録のできなかったものである。

〔5〕 末尾に記した13種の Original plants, unknown としたものは未だ植物の「種」の固定し得ないものである。

〔6〕 用部に示した略字解は次に示す。

ba	bark	re	resin	stm.....	stamen
ext	extract	rh	rhizome	tu	tuber
fl.....	flower	ro	root	w	wood
fr	fruit	se	seed	wp	whole plant
lf	leaf	sm.....	stem		

List of plants as folk medicine in Lop-buri, Thailand

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Krang	MORACEAE E-25 <i>Ficus altissima</i> Blume <i>F. bengalensis</i> Linn.	——	
Cha-paeng	<i>Ficus gibbosa</i> Blume	ro, w	antipyretics; diuretics
Pho	<i>Ficus religiosa</i> Linn.	(ba)	(for wounds)
——	<i>Ficus sp.</i>	——	
Ka-tok-rok	OLACACEAE E-28 <i>Ola x scandens</i> Roxb.	sm (ba) (w)	antipyretics; diuretics (for fevers; tonics) (antipoison (strychnine) and external uses for wounds.)
Pak-wan-pa	OPILIACEAE E-30 <i>Melientha suavis</i> Pierre	sm, ro (ro)	antitoxicity (for fevers; abnormality of bladder)
——	BALANOPHORACEAE E-35 * <i>Balanophora sp.</i>	wp	
phak-bia-yai	NYCTAGINACEAE E-41 <i>Boerhaavia diffusa</i> Linn. (= <i>B. repens</i> L.)	——	
Kod-kao-mu	* <i>Pisonia aculeata</i> Linn.	sm, ro fr	for fevers cathartics

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
	PORTULACACEAE E-44		
Sarapis-ngu-ngod	* <i>Portulaca pilosa</i> Linn.	ro, lf	anti-snake-poison
	AMARANTHACEAE E-49		
Phak-khom-nam	<i>Amaranthus spinosus</i> Linn.	ro	decreasing heat; for worms in children
	ANNONACEAE E-56		
Sa-lao	* <i>Desmos chinensis</i> Lour.	wp	for fevers
—	(Annonaceae)	sm, ro	for fevers
	LAURACEAE E-68		
I-men	* <i>Litsea polyantha</i> Juss.	wp	diuretics
		(ro)	(for muscle pain)
		(ba)	(for dysentery and itching)
		(lf)	(for abscess)
		(se)	(for abscess)
		(re)	(for wounds)
	MENISPERMACEAE E-78		
Bora-ped-pung -chang	<i>Stephania rotunda</i> Lour. (= <i>S. pierrei</i> Dieles)	tu	tonics
Bai	(Menispermaceae)	—	—
	PIPERACEAE E-82		
Phlu	<i>Piper betle</i> Linn.	lf	juice of fresh leaves as stomachics
Di-pli	<i>Piper chaba</i> Hunter	fr, sm	tonics (stomachics, carminatives, antidiarrheics.)
Cha-phlu	<i>Piper sarmentosum</i> Roxb.	(ro, fl)	(for making carminative poison; stomachics)
	GUTTIFERAE E-102		
Sara-phi	<i>Ochrocarpus siamensis</i> T. Anders.	fl (stm)	fragrant remedy (cardiotonics, neurotonics)
	CAPPARACEAE E-108		
Kai-hai	* <i>Capparis flavicans</i> Kurz	w	for fevers
—	* <i>Capparis sepiaria</i> Linn.	—	—
—	<i>Capparis</i> sp.	—	—
Chaeng	<i>Niebhria siamensis</i> Kurz	lf, w (ba, ro, lf)	for fevers (decoction for malaria, abnormal bile)
	MORINGACEAE E-112		
Pleuk-ma-room	<i>Moringa oleifera</i> Lam.	ba (se)	for high blood pressure (carminatives) (oil—anti-inflammatory agents)

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Pra-dong-sai	ROSACEAE E-127 <i>Parinarium sp.</i>	—	—
Pra-dong-nok -krod	<i>Parinarium sp.</i>	—	for cancer
Si-siat	LEGUMINOSAE E-131 <i>Acacia catechu</i> Willd.	(ba)	(antidiarrheics)
Kra-tin-wimarn	<i>Acacia tomentosa</i> Willd.	wp (sm)	for fevers; diuretics (rubbed with Ca(OH) ₂ as ear drops for abscesses and with other remedy for fevers and skin diseases)
Ma-klam-ton	<i>Adenantha microsperma</i> Teysm. et Binn.	sm (w)	antipyretics (rubbed with water for covering the temple in case of headache)
Cha-em-thai	<i>Albizzia myriophylla</i> Benth.	sm (ro)	cathartics for children (tonics; stomachics; for cough) (weak cathartics; expectorants)
Som-siao Piang-pa-ko	<i>Bauhinia acuminata</i> Linn. <i>B. variegata</i> Linn.	sm (ba)	antipyretics; diuretics (diuretics; expectorants; antidiarrheics; for chronic wounds)
Kra-dai-ling	<i>Bauhinia horsefieldii</i> Mc. Bride.	sm	infusion for fevers
—	<i>Bauhinia sp.</i>	—	—
Thong-kruer	<i>Butea superba</i> Roxb.	sm	antipyretics; diuretics
Sa-mae-sarn	<i>Cassia garrettiana</i> Craib	sm (w)	antipyretics; diuretics (weak cathartics; expectorants)
Ki-lek-bab	<i>Cassia siamea</i> Lam.	sm (ba) (w)	for fevers (for haemorrhoids) (for gonorrhoea; cathartics)
Pak-kled	<i>Cassia sophera</i> Linn.	lf (ro)	remedy for cooling (for fevers; skin diseases) (stomachics)
Chum-het-thai	<i>Cassia tora</i> Linn.	(se) (sm, ro)	(roasted-infusion for controlling nerves) (antipyretics, diuretics)
Ang-chan-khao	<i>Clitoria macrophylla</i> Wall. <i>C. ternatea</i> Linn.	wp (ro) wp (ro)	for fevers; diuretics (poultice; for rabies poison) for fevers; diuretics (stomachics)

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Thao-wan -priang	<i>Derris scandens</i> Benth.	sm	infusion for fevers (expectorants, diuretics, antidiarrheics, cathartics)
I-niew	<i>Desmodium gangeticum</i> DC.	sm (ro)	diuretics (diuretics, and anthelmintics, only for children)
Mai-sak	<i>Erythrophleum</i> spp. <i>E. succirubrum</i> Gagnep. <i>E. teysmannii</i> Kurz var. <i>puberulum</i> Craib	— (w)	for cancer (charcoal powder—for fevers)
Khram	<i>Indigofera suffurticosa</i> Mill. <i>Indigofera</i> sp.	wp	diuretics
Ma-kham-thet	<i>Pithecellobium dulce</i> Benth.	(ba)	(astringent remedy; antidiarrheics)
Phya-te-kraua	* <i>Pterolobium micranthum</i> Gagnep.	sm, ro	diuretics
Sok Sok-nam	<i>Saraca bijuga</i> Prain <i>S. pierreana</i> Craib	sm, ro	antipyretics; diuretics
—	<i>Uraria</i> sp.	—	—
Tua-pi	<i>Vigna luteola</i> Benth.	(ro)	(diuretics)
Rod-daeng	EUPHORBIACEAE E-142 <i>Aporosa villosa</i> Baill.	ba	faint remedy; for fevers (carminatives; for expelling menstruation)
Tong-tag	<i>Baliospermum axillare</i> Blume	sm, ro (ro)	weak cathartics; for fevers (cathartics; for asthma)
Sa-lad-dai	<i>Euphorbia trigona</i> Haw.	w	for high blood pressure (tonics for lung and liver; expectorants; anti-bolod-poison)
Khan-thong -phyia-bart	<i>Gelonium multiflorum</i> A. Juss. (= <i>Hippocratea cambodiana</i> Pierre)	w	for cancer; dermatologic agents (for fevers; dermatologic agents; antineoplastic, antipyretics)
Sa-bu-daeng	<i>Jatropha gossypifolia</i> Linn.	sm (se)	infusion—diuretics (oil—strong cathartics)
Ma-kham-pom	<i>Phyllanthus emblica</i> Linn. (= <i>Emblica officinalis</i> Gaertn.)	fr (fr)	(juice—diuretics, antidiarrheics) (infusion—for fevers and cough)
Kang-pla-khao	* <i>Phyllanthus glaucus</i> Baill.	sm	anthelmintics for children
Ma-kham-kai	<i>Putranjiva roxburghii</i> Wall.	wp	(except fruits) antipyretics

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
La-hung-daeng	<i>Ricinus communis</i> Linn.	sm fr (ro)	antipyretics for itch (antipyretics; diuretics)
La-hung-khao	" " "	sm, fr	for fevers
—	(Euphorbiaceae)	—	—
Ma-nao-pi	RUTACEAE E-144 <i>Atalantia monophylla</i> DC.	sm	antipyretics
Khuey-tai	<i>Glycosmis cochinchinensis</i> Pierre (= <i>G. pentaphylla</i> Hook. f.)	ro, w, lf (ro)	diuretics (antitoxic agents; dermatologic agents)
Phya-ya	<i>Limonia acidissima</i> Linn.	sm ro	for fevers for anti-snake-bite (cathartics; antipyretics)
Prong-far	<i>Murraya siamensis</i> Craib	wp (ro)	for fevers (anti-inflammatory agents for eyes)
Khon-tha	SIMAROUBACEAE E-146 <i>Harrisonia perforata</i> Merr.	(sm) (ro)	antidiarrheics antipyretics
Ta-sür	MELIACEAE E-149 * <i>Amoora</i> sp.	(sm, ro)	antipyretics; diuretics
Lian	<i>Melia azedarach</i> Linn. <i>M. toosendan</i> Sieb. et Zucc.	w, ba, ro (wp)	dermatologic agents (dermatologic agents; antileprous agents)
Pluak-khi-ai	<i>Walsura robusta</i> Roxb.	ba	astringent (antidiarrheics)
Tarn-sien	SAPINDACEAE E-160 <i>Filicium decipiens</i> Thw.	sm	anthelmintics for children
Ma-duk	CELASTRACEAE E-172 <i>Siphonodon celastrineus</i> Griff.	sm sm, ro (ro)	for fevers antipyretics; diuretics dermatologic agents
Pung-dor	SALVADORACEAE E-176 <i>Azima sarmentosa</i> Benth.	sm, ro	antipyretics; diuretics
Phu-tsa	RHAMNACEAE E-180 <i>Zizyphus</i> sp.	(ba) (lf)	(antidiarrheics) (poultice for cold)
Si-siat	TILIACEAE E-185 <i>Pentace burmanica</i> Kurz	ba, ext	antidiarrheics; for chewing

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Krob-challra -warn	MALVACEAE E-186 <i>Abutilon graveolens</i> W. et A.	wp (sm) (ro)	antipyretics; diuretics (blood tonics) (tonics; stomachics; for cough)
Fai	<i>Gossypium brasiliense</i> Macfad.	wp	antipyretics; diuretics
Chan-pha-ma	STERCULIACEAE E-188 <i>Mansonia gagei</i> Drummond	wo, ba	(cardiotonics; tonics)
Kraeuy-pa	FLACOURTIACEAE E-195 <i>Casearia grewiaifolia</i> Vent. Choix.	sm, ro lf (ro)	for itch for haemorrhoid (dermatologic agents) (antidiarrheics)
Tam-loung	CUCURBITACEAE E-215 <i>Coccinia indica</i> W. et A.	wp (ro) (lf)	antipyretics; diuretics (antipyretics) (anti-inflammatory agents)
Buap-khom	<i>Luffa cylindrica</i> Roem.	wp, ro fr (lf)	for fevers for haemorrhoids (for wounds to stop the flow of blood)
Khi-ka-khao	<i>Trichosanthes cordata</i> Roxb.	wp (fr)	for fevers (anthelmintics)
—	LYTHRACEAE E-216 <i>Lagerstroemia</i> sp.	ba	—
San-pra-nang-ae	RHIZOPHORACEAE E-225 <i>Carallia brachiata</i> Merr. (= <i>C. integririma</i> DC.)	sm (ba)	antipyretics; diuretics (antipyretics)
Sakae-nom	COMBRETACEAE E-226 <i>Combretum quadrangulae</i> Kuntz.	sm, ro, fr	anthelmintics for children
Haen	<i>Terminalia glaucifolia</i> Craib	sm	for fevers
Ma-kham-kri	<i>Terminalia obliqua</i> Craib	wp (ba)	for fevers (antidiarrheics)
Mai-pru	ALANGIACEAE E-233 * <i>Alangium salvifolium</i> Wang. subsp. <i>hexapentalum</i> Wang.	sm	antipyretics; diuretics
La-mut-farang	SAPOTACEAE E-252 * <i>Achras sapota</i> Linn.	—	—
Phik-khun	<i>Mimsops elengi</i> Linn.	(fl) (ba)	(for making snuff) (infusion-anti-inflammatory agents for mouth)

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Ta-ko-pa-nom	EBENACEAE E-252 <i>Diospyros castanea</i> Fletcher	sm (ba)	for fevers (antidiarrheics)
	<i>Diospyros molis</i> Griff.	ro (fr)	antivomiting agents (anthelmintics)
	<i>Diospyros montana</i> Roxb.	sm, ro	anthelmintics
	<i>Diospyros rhodocalyx</i> Kurz	sm, ro (ba, w)	diuretics, anthelmintics for children (infusion—stomachics, tonics)
	<i>Diospyros variegata</i> Kurz	sm (w)	for fevers (diuretics)
Ma-li-wan	OLEACEAE E-257 <i>Jasminum nervasum</i> Lour. (= <i>J. bifolium</i> Lour.)	(ro) (fl)	(antidote) (for making the good smell remedy for fevers)
	LOGANIACEAE E-258 <i>Strychnos nux-vomica</i> Linn.	(se)	(cardiotonics; neurotonics; sex-hormone for men)
Phaya-mu-lek	<i>Strychnos roborans</i> A.W. Hill	(w, ro)	(antipyretics)
Ma-diy-din	APOCYNACEAE E-262 <i>Aganosma mariginata</i> G. Don	(ro) (lf)	(tonics after recovery from sickness) (poultice)
	<i>Carissa cochinchinensis</i> Pierre	sm, ro (w)	antipyretics; diuretics (tonics)
Prik-pa-lek	<i>Ervatamia microphylla</i> Kerr	(wp)	(for fevers)
Mok-luang	<i>Holarrhena antidysenterica</i> Wall.	(ba)	(for dysentery; stomachics)
		(se)	(astringent)
Thao-yod-daeng	* <i>Ichnocarpus frutescens</i> R. Br.	wp	antipyretics; diuretics
—	<i>Ichnocarpus</i> sp.	—	—
Rak-khao	ASCLEPIADACEAE E-263 <i>Calotropis gigantea</i> R. Br. et Ait.	(re)	(anthelmintics)
	<i>Hoya parasitica</i> Wall.	lf sm	for haemorrhoids diuretics
Ta-krai-nam	RUBIACEAE E-264 <i>Cephalanthus maucloides</i> DC.	sm (w, ro)	anti-malaria agents antipyretics; tonics; diuretics
	* <i>Gardenia</i> sp.	—	—

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Kra-chao-pi -mod	<i>Hydnophytum formicarrum</i> Jacq.	ro (rh)	antipyretics, diuretics (anthelminitics; cardiotonics; neurotonics)
U-lok	<i>Hymenodictyon excelsum</i> Wall.	sm, ro (ba)	antipyretics; diuretics (for fevers)
Khem-khao	<i>Ixora coccinea</i> Linn. ?	sm	for cooling
Khem-daeng	<i>Ixora</i> sp. (red flower)	ro, lf	for fevers
Ka-pang-hom	<i>Paedaria foetida</i> Linn. (= <i>p. scandens</i> (lour.) Merr.)	wp (sm) (lf) (ro)	anthelmintics for children (carminatives; antipyretics) (poultice for pyorrhoea) (eye-drop for sore eyes)
Ta-loom-puk -khao	<i>Randia uliginosa</i> Poir.	sm (fr, ro)	antipyretics, diuretics (antidiarrheics)
Man	BORAGINACEAE E-269 <i>Cordia dichotoma</i> Forst. f. (= <i>C. obliqua</i> Willd.)	sm fr (ba)	for fevers edible (for cough)
Ta-krai-hang -nark	<i>Rhabdia lycioides</i> Mart.	wp (sm)	anti-malaria agents (diuretics)
Phya-rak-diew	VERBENACEAE E-271 <i>Clerodendron indicum</i> O. Kuntz.	ro	for snake-bites (antipyretics)
Nom-swan	* <i>Clerodendron paniculatum</i> Linn. var. <i>diversifolium</i> C. B. Clarke	wp	antipyretics; diuretics
Song-maiw	<i>Gmelina arborea</i> Roxb.	sm (lf) (ro)	antipyretics; diuretics (juice for curing wounds) (stomachics)
Sa-khe-wan	* <i>Hymenopyramis siamensis</i> Craib	sm, fr	anthelmintics; for fevers in children
Khai-no	<i>Vitex glabrata</i> R. Br.	ba (ba, ro)	anthelmintics (astringent; antidiarrheics; stomachics)
Kon-din-sor-pa	<i>Vitex trifolia</i> Linn.	wp	antipyretics; diuretics
Rü-sipra-som -laew	LABIATAE E-273 * <i>Coleus blumei</i> Benth.	lf	for cooling
Ka-phrao	<i>Ocimum sanctum</i> Linn.	wp (lf)	medicine; food; spice (carminatives; stomachics; antidiarrheics)

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Lam-pong	SOLANACEAE E-274 <i>Datura metel</i> Linn.	fr (lf) (fl) (ro) (se)	for cancer of the stomach (poultice for inflammation) (antiasthma agents) (anti-inflammatory agents and for skin rash, and for fevers) (oil-dermatologic agents)
Tong-teng	<i>Physalis minima</i> Linn.	wp	diuretics, for fevers (external uses—anti-inflammatory agents)
Ma-fai-duen-ha	SCROPHULARIACEAE E-278 <i>Scoparia dulcis</i> Linn.	wp (sm) (lf) (ro)	remedy, for faint and for bad blood (stomachics) (antileprous agents; anthelmintics) (for fevers)
—	<i>Scoparia sp.</i>	wp	—
Pe-ka	BIGNONIACEAE E-280 <i>Oroxylum indicum</i> Vent.	(ba) (ro) (se)	(astringent) (stomachics) (weak cathartics)
Ang-kab	ACANTHACEAE E-282 <i>Barleria sp.</i> (<i>Barleria siamensis</i> Craib ?)	lf ro	remedy for cooling antipyretics
Ya-dok-khao	COMPOSITAE E-303 <i>Veronica cinerea</i> Less.	wp (lf)	antipyretics; diuretics (stomachics) (fresh lf—poultice for wounds, astringent; and for sore-eyes)
Hua-khao-yen	LILIACEAE E-314 <i>Smilax sp.</i>	rh (rh)	anti-malaria agents (for yaws, gonorrhoea and skin diseases)
—	GRAMINEAE E-342 <i>Bambusa sp.</i> (spine)	sm	for cancer
—	<i>Bambusa sp.</i> (no spine)	ro	for fevers, to cool the body temperature
Tan-ta-nod	PALMACEAE E-343 <i>Borassus flabellifera</i> Linn.	(fl) (ro)	for killing worms in children, and curing wound) (against thirsty)

Thai local name	Plant name	Part used	Medicinal uses
Buk	ARACEAE E-352 <i>Amorphophallus campanulatus</i> Blume	(rh)	(expectorants; oil—liniment for wounds)
Ut-ta-pit	<i>Typhonium roxburghii</i> Schott <i>T. trilobatum</i> Schott	rh	anti-inflammatory agents (expectorants; oil—for wounds)
Wan-chak-mot -luk	ZINGIBERACEAE E-352 <i>Curcuma comosa</i> Roxb.	rh	blood tonics; for the abnormality of uterus (pounded and fermented with spirits to be used for ladies to maintain the uterus after giving birth)
Ob-cheuy-thai	(Original plant, unknown)	sm	fragrant remedy
Thao-kan-daeng	(")	sm	antipyretics; diuretics
Pra-dong-lom	(")	sm	dermatologic agents
Pra-dong-sai	(")	sm	dermatologic agents
Pok-pai	(")	sm	for fevers
Lok-khao	(")	sm, ba	for fevers
Lok-daeng	(")	sm	remedy for faint
Ka-dan-ton	(")	sm	antipyretics; diuretics
Khi-non	(")	sm	antipyretics; diuretics
Pung-cham	(")	sm, ba	for stimulating the mammary gland to secrete milk
Phak-khom-hin	(")	wp	for fevers
La-ong-pra-bart	(")	—	—